

2016 年度聖書の集い（第 5 回）

2016 年 10 月 12 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

1、聖歌 15 番 「来る朝ごとに」

2、お祈り

3、聖書 「マタイによる福音書 7：7～12（新約聖書 11 ページ）

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば

「⑤だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

運動会も無事終わり、お芋掘りにもようやく行くことができました。また朝晩の気温もかなり低くなってきています。体調を崩しやすい季節ですので、どうぞお気をつけください。

今月の言葉は、個人的に一番好きな箇所（マタイ 7：7）に続くところです。してもらいたいことを周りの人にもしなさいという命令は、ごく当たり前のことのようにも思えます。しかしここには、もっと大きな意味が隠されています。

① 黄金律（ゴールドデン ルール）

実はこのような文言は、キリスト教に限らず多くの宗教にもあります。ユダヤ教やイスラム教、ヒンズー教、また孔子の論語にもみられます。しかしイエス様の言葉と大きく違うことがあります。それはイエス様が「人にしてもらいたいと思うことを、他人にしなさい」と言っているのに対し、他の宗教などでは「人にしてもらいたくないことを、他の人にはしてはならない」という禁止の命令になっているということです。

たとえば子どもたちに、「こんなことしちゃダメでしょ。あなたもされたら悲しいでしょ」と言うのと、「うわあ、うれしいな。あなたも同じことしてもらったら、きつとうれしいと思うよ」と言うのとでは、全然違うと思います。

イエス様はわたしたちに、能動的に人の喜ぶことをしなさいと言われているのです。でもその前に、わたしたちにも大きな約束をしてくださっています。

② 神さまがまず与えてくれる

わたしが聖書の中で一番好きなのが、この部分です。

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

わたしたちはこの世に生を受け、毎日を過ごしています。生まれたときには、何も持たずにやって来たと思います。また天に召されるときも、何かを手を持って旅立つことなどできません。わたしたちが今もっているものは、神さまに与えられ、両親に与えられ、周りの人に与えられ、たくさんの人に与えられたものです。そしてすべてのものは、元をただせば神さまが与えてくださったものだ、聖書は説くのです。

さらに神さまは、わたしたちの求めにも応じてくださる。だからわたしたちは、周りの人にも優しくなれるのです。子どもたちだってそうです。おうちの方が愛情を惜しみなく注いでいるからこそ、同じように人に接することができる。これが黄金律なのです。

③ 神さまとの関係だけではなく

一般的に宗教というと、個人と神さまとの関係だと思われがちです。しかしキリスト教では「他人のために祈る」ということをとても大事にしています。

子どもたちの礼拝の中でも、病気の人や困っている人のために祈ります。教会でも様々な状況にある人たちのことを具体的にあげて、お祈りをしていきます。自然災害や紛争の地域のこと、入院されている方、誕生日を迎える人、天に召されて～年目の人などなど。

みんな一生懸命お祈りします。自分のことよりもまず、隣にいる人のために祈るのですね。それは何故かという、自分のことを祈ってくれている人が、たくさんいることを知っているからです。祈りに支えられて、心からうれしかった経験をしたことがあるからです。

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」、その言葉を心に持ちながら隣にいる人に接することができたならば、素晴らしい世界が訪れるのではないのでしょうか。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）：毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝：毎週日曜日 午前 10 時 30 分から

オーリーブまつりは 11 月 13 日(日)、子ども祝福式は 11 月 20 日(日)